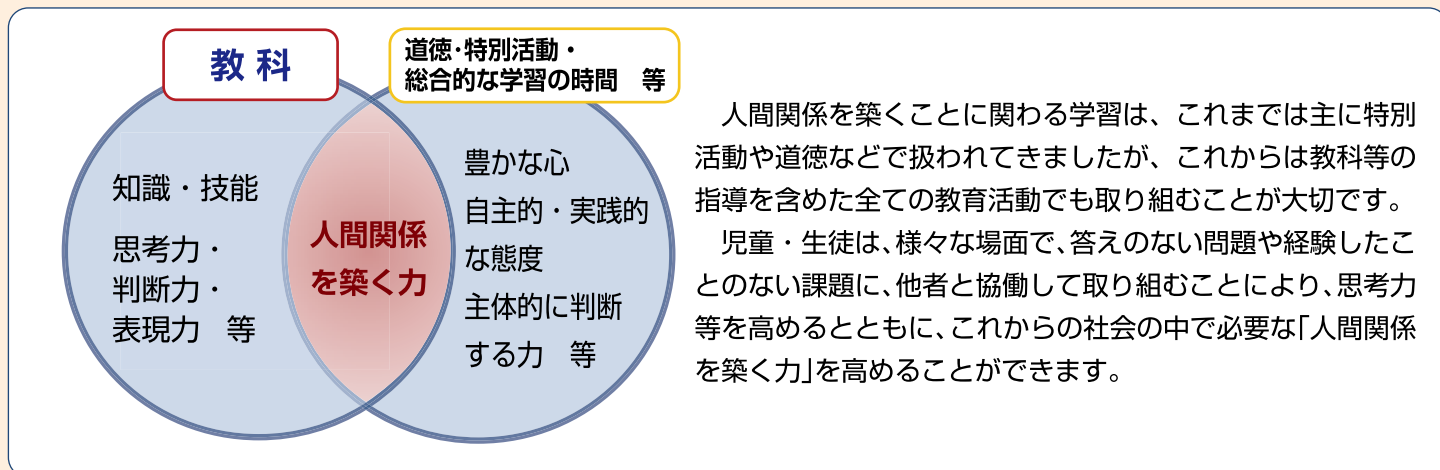
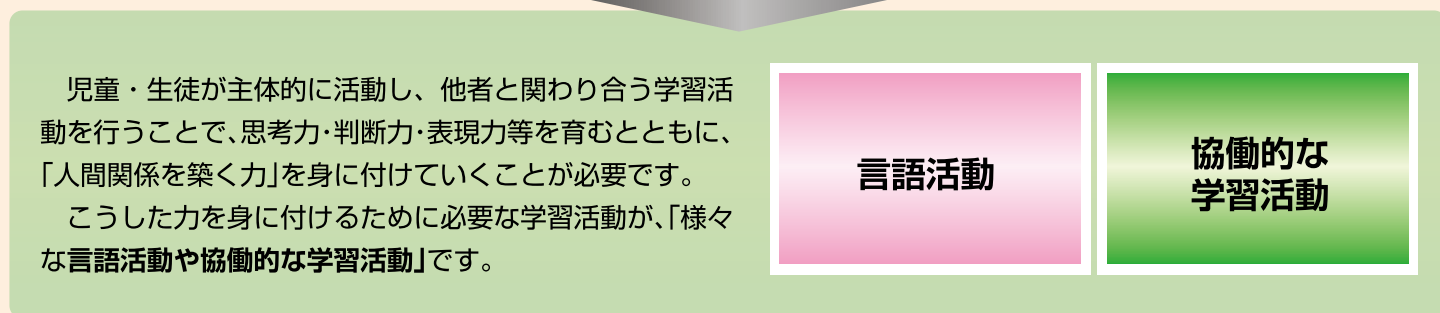
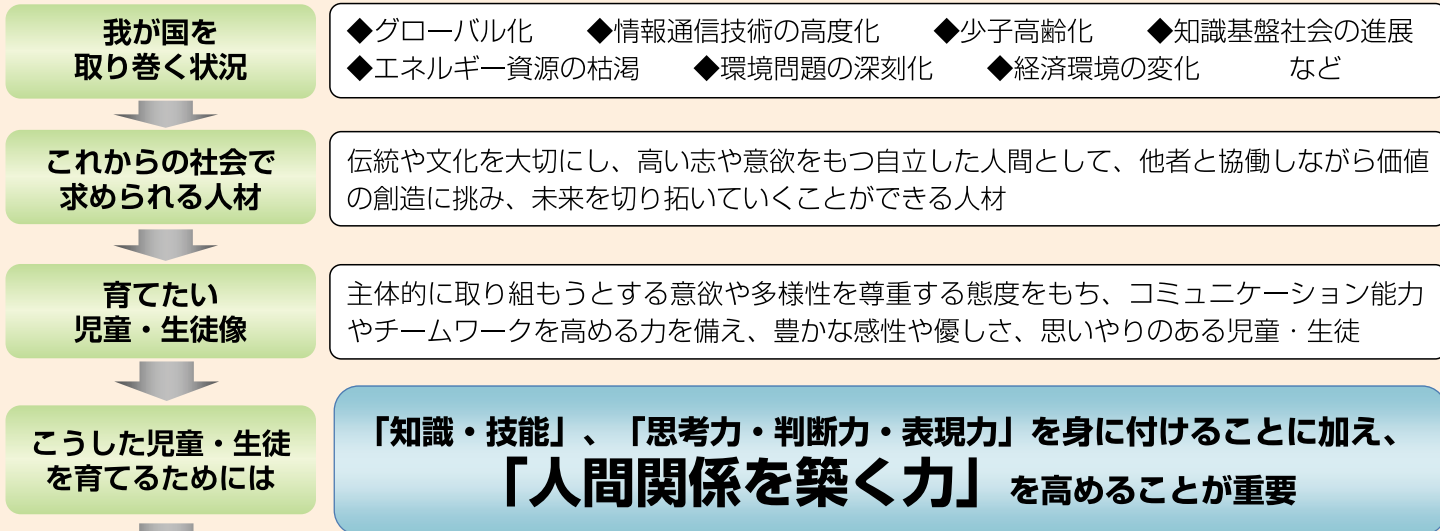


教科等の指導で「人間関係を築く力」を高める 様々な言語活動や協働的な学習活動を通して

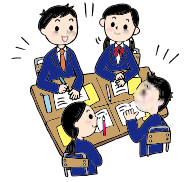
東京都教職員研修センターでは、我が国を取り巻く状況を踏まえ、これからの社会の中で生きていく子供たちにとって必要な力を整理し、それらの力を身に付けるために、教科等の指導において大切なポイントをまとめました。



教科等の指導で人間関係を築く力を高めるポイント

教科等の指導で人間関係を築く力を高めるためには、学級の中で誰もが安心して発言できるような雰囲気をつくっていくことが大切です。

以下に、教科等の指導で人間関係を築く力を高めるポイントを示します。



① 他者と話し合う必然性のある課題の設定

- ・話し合う「必然性のある課題」、「意欲がもてる課題」の吟味
- ・協働的な学習活動の方法、内容の明確化

② コミュニケーションを深めるための個に応じた指導

- ・事前に児童・生徒の実態を把握
- ・主体的に学習が進められるような手順の提示
- ・一人一人が得意なことを発揮し、苦手なことを互いにカバーできる配慮



③ 互いの考えを知るための工夫

- ・興味・関心や習熟の程度に応じたグループの構成
- ・考えを発表したり、交流したりするための教材・教具の活用(付箋、模造紙、小型ホワイトボード、実物投影機、電子黒板等)



④ 自己評価を生かした指導と評価の一体化

- ・継続的な自己評価による学びの振り返り
- ・自己評価を生かした協働的な学習活動に対する意欲の喚起
- ・児童・生徒の「自己評価」と評価項目を一致させた教師による評価



Q 協働的な学習活動などで、人と関わり合うことが苦手な児童・生徒にはどのような指導や支援が必要でしょうか。

A 人と関わり合うことが得意な児童・生徒が話し合いを進めたり、話をまとめたりする役割を担い、人と関わり合うことが苦手な児童・生徒は、相手の話を聞く、うなずく、記録をとるなど、自分ができることを行えるようにすることなどが考えられます。

協働的な学習活動の積み重ねにより、徐々に人との関わりがもてるような目標を設定することも手だての一つです。

各グループの学習活動の状況を注意深く観察し、人と関わり合うことが苦手な児童・生徒も含めて個に応じた指導を行うことが大切です。

様々な言語活動や協働的な学習活動で培う力

言語活動

言語活動で身に付けられる力

- 思考力・判断力・表現力等
言語活動を通して、よく考え、判断して、自分の言葉で表現できる

指導上の留意点

- 単元指導計画のどの過程に言語活動を位置付けるのがよいか吟味する
- 自分で考える時間を十分に保障する
- 自分の考えをノート等に書く活動を設定する



協働的な学習活動

協働的な学習活動で身に付けられる力

- 他者の考えを聞いたり他者と話したりすることで自分の知識や考え方の幅を広げることができる
- 場や相手に応じて対応できる力を身に付けることができる
- 自律性・社会性を身に付けることができる

など

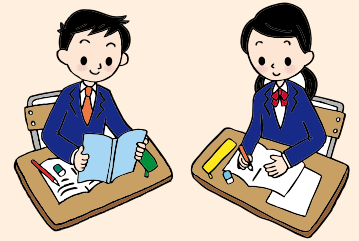
指導上の留意点

- 単元指導計画のどの過程で協働的な学習活動を実施するのがよいか吟味する
- 児童・生徒の役割分担を明確にする



様々な言語活動で思考力、判断力、表現力等を伸ばすとともに、協働的な学習活動で人間関係を築く力を高めていきます。

人間関係を築く力を高めるための学習過程例



様々な言語活動や協働的な学習活動を学習過程の中に以下のように設定します。



課題を把握する

言語活動

- ・ 本時の目標について教師の説明を聞く
- ・ 資料から必要な情報を適切に取り出す

自分の考えをもつ

言語活動

- ・ ノートに自分の考えとその理由を書く
- ・ 図や表等を使って考えを表す

協働的な学習活動

ペア・グループ

考えを共有する
相違に気付く
思考を整理する
新たに気付く
思考を広げる

全体

相違に気付く
共通点に気付く
新たに気付く
思考を広げる
思考を深める

言語活動

- ・ 互いの考えを伝え合う
- ・ 理由や立場を明確にして説明する
- ・ 意見交換を行う
- ・ 自分の考えと他者の考えとを比較して、分類、関連付けを行う
- ・ 多面的、多角的に考察する
- ・ 他者の意見の妥当性や信頼性を吟味する
- ・ 図や表を作成した他者の意図を読み取る
- ・ 疑問に感じたことを質問する
- ・ 話し合いの過程を記録する

様々な言語活動や協働的な学習活動で養われる態度



自分の考えを再構築する

言語活動

- ・ 他者の意見を参考にして考察する
- ・ 自分が書いた文章を見直し記録する

自己の変容などを振り返る

言語活動

- ・ 学習の感想を書き発表する
- ・ 他者の感想を聞く

課題を解決する



小学校

教科の特性や単元の内容に応じて、様々な言語活動や協働的な学習活動を柔軟に取り入れていくことが重要です。

…言語活動

…協働的な学習活動

国語

第4学年「ごんぎつね」

課題：ごんは兵十に栗を届けていたのが自分であることを伝えたかったのかどうかを考えよう

言語活動のポイント

◇根拠を明確にして課題に対して、自分の考えを他者に伝えるとともに、相手の考えを聞いて更に自分の考えを深めたり見直したりし、再び考えを書くよう指導する。

協働的な学習活動のポイント

◇ごんの気持ちを「A 本当のことは知らせなくてよい」、「B 本当のことを知らせたい」という二つの考えから選択し、選んだ理由や根拠を明確にして話し合わせる。

課題をつかむ

1 本時の課題を確認する。

自分の考えをもつ

2 課題に対する自分の考えをA、B二つの選択肢から選び、理由を書く。

協働的な学習活動
グループ全体

3 選択した理由を話し合う。

自分の考えを見直す

4 話し合いを振り返り、A、Bのどちらかの考えに最終決定する。

自己の変容などを振り返る

5 話し合いをして、分かったことを発表する。

6 話し合いについての自己評価を行い、「振り返りシート」に記入する。



社会

第4学年「青山土と荒川」

課題：荒川放水路が完成したときの人々の思いや願いについて考えよう

言語活動のポイント

◇自分の考えを記述する際に、具体的な事実を多く記述している場合には「つまり」、「まとめると」、具体的ではない記述をしている場合には「例えば」という言葉を使って表現するよう指導する。

協働的な学習活動のポイント

◇これまでの学習を振り返り、意欲的に考えられるように、導入の資料提示で電子黒板を活用する。課題に応じて一部分を拡大したり、隠したりする操作を行う。

課題をつかむ

1 荒川放水路に関わった人を発表する。

自分の考えをもつ

2 課題に対する自分の考えと、その理由を書く。

協働的な学習活動
グループ全体

3 考えた理由について話し合う。



自分の考えを見直す

4 話し合いをした上で、もう一度課題について意見を書く。

自己の変容などを振り返る

5 話し合いをして、分かったことを発表する。

6 話し合いについての自己評価を行う。

算数

第4学年「面積の求め方」

課題：複合図形の面積の求め方を考えよう

言語活動のポイント

◇求めた面積の値が正しいかどうかと同時に、より効率的に求める方法などについて、その工夫や考えを式や言葉で表現する。また、それぞれの解決方法のよさについて話し合うことを明確に指示する。

協働的な学習活動のポイント

◇グループによる話し合いの前に、ペアによる「対話」を取り入れ、その後のグループの人数を3～4名程度とすることで、一人一人が自分の考えを発表する機会を確保する。

課題をつかむ

1 本時の課題を確認する。

自分の考えをもつ

2 自分の考え方をノートに記述する。

協働的な学習活動
ペアグループ

3 考えた解決方法を隣の児童に伝え、解決方法を確認し合う。
4 グループで話し合い、考え方を広げたり深めたりする。
5 それぞれの考え方の共通点を探し、複合図形の面積の求め方を考える。
6 話し合いをして分かったことを発表する。



自分の考えを見直す

7 話し合いをした上で、もう一度課題について自分の考えを見直す。

自己の変容などを振り返る

8 話し合いについて、自己評価を行う。

理科

第6学年「水溶液の性質」

課題：青色ののりが無色になる原因を考えよう

言語活動のポイント

◇児童が考えを的確に表現できるよう、記述の定型文を示す。児童に話型を示し、「結果の予想と同じだったことは、～です。」や「結果の予想と違ったことは、～です。」のように表現するよう指示する。

協働的な学習活動のポイント

◇グループ用の小型ホワイトボードを活用し、自分の考えやグループの考えを他者と共有して話し合いの活性化を図る。

課題をつかむ

1 無色になる青色ののりについて話し合う。



自分の考えをもつ

2 青い色が無色になる原因を考え、予想・仮説を立てる。

協働的な学習活動
グループ全体

3 児童の予想・仮説を十分に吟味し合った後、グループで実験計画を立てる。

4 グループごとに実験し、実験の結果をまとめる。

自分の考えを見直す

5 実験結果から考察し、結論を出す。

自己の変容などを振り返る

6 自己評価を行い、学習の感想を「振り返りカード」に記入する。

外国語活動

第5学年「What's this?」

課題：グループでクイズを考え、出し合おう

言語活動のポイント

◇自分が考えたクイズやヒントを伝え、他者の考えを聞き、話し合うことで、新たなクイズやヒントを作る。

協働的な学習活動のポイント

◇他者と話し合う中で、自分の考えと他者の考えを比較したり、参考にしたりして、よりよいクイズやヒントを作る。

課題をつかむ

1 本時の課題を確認する。

自分の考えをもつ

2 クイズの見本を見ながら、一人一人がスリーヒントクイズを作成する。

協働的な学習活動
グループ

3 グループでクイズやヒントの内容や出し方を話し合う。

4 グループで出すクイズやヒントを決め、やり取りを練習する。



自分の考えを見直す

5 自分たちで考えたヒントをもう一度見直す。

自己の変容などを振り返る

6 自己評価を行う。

中学校

教科の特性や単元の内容に応じて、様々な言語活動や協働的な学習活動を柔軟に取り入れていくことが重要です。

…言語活動

…協働的な学習活動

国語

第2学年「テーマを決めて話し合おう」(討論)

課題：異なる考えを想定して、自分の意見を明確に述べよう

言語活動のポイント

- ◇討論とはどういう話し合いかを導入時に学習し、意見の述べ方や、聞き方、反論のポイントを示す。
- ◇メモを取りながら相手の意見の根拠(理由)を聞き取らせるようにし、そのメモを基にして、次の討論のための作戦として、反論をノートに書く。

協働的な学習活動のポイント

- ◇自分の意見の根拠を考える学習、相手の反論を予想し討論に役立てる学習をする際に、同意見の生徒で構成する少人数グループを設定し、「討論」の際、作戦会議をするメンバーと同じにする。

課題を把握する

- 1 本時の課題を確認する。
 - 2 討論の方法・注意点を確認する。
- ※ 自分の考えは前時までにまとめておく。

協働的な学習活動
ペア
グループ

- 3 討論を行う。
【6人グループの討論例】
- ① 1対1で討論を行う。
- ② ①の討論の内容を受け、次の対戦の二人がそれぞれの論立てを再度考える。
- ③ ①、②を3回繰り返す。
- ④ グループで振り返る。



自分の考えを再構築する

- 4 討論について、自分の論立てや内容を振り返る。

自己の変容などを振り返る

- 5 討論の学習を振り返り、自己評価を行い、学習の感想を書く。

社会

第2学年「江戸幕府の成立とその特色」

課題：江戸幕府が長く続いた要因を考え、話し合った結果を発表しよう

言語活動のポイント

- ◇他者の意見を参考にして、自分の意見を多面的・多角的に振り返る場面を設定する。武家社会の支配構造について調べたことを基に話し合わせ、経済的側面や農民の立場などから考えさせる。

協働的な学習活動のポイント

- ◇意見が言いやすい環境をつくり、話し合いに参加させる。考えの深まり、知識の定着のため、「2人の相談」、「4人の話し合い」、「6人での発表」など、学習過程によりグループの構成人数を変えて話し合いを行い、参加機会を増やす。

課題を把握する

- 1 課題を把握し、江戸幕府の支配構造における、大名や農民などの立場の違いを確認する。

自分の考えをもつ

- 2 課題に対する自分の考えをもち、理由を書く。

協働的な学習活動
グループ
全体

- 3 考えた理由について話し合う。



自分の考えを再構築する

- 4 話し合いをした上でもう一度課題について意見を書く。

自己の変容などを振り返る

- 5 話し合いについて自己評価を行い、相互に学習を振り返る。

数学

第3学年「三平方の定理」

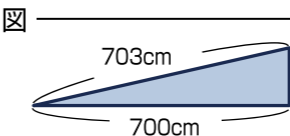
課題：図のスロープは、バリアフリー法の基準を満たしているか考えよう

言語活動のポイント

- ◇論理的な説明が苦手な生徒でも、その後の話し合い活動に参加できるようにワークシートに解き方の手順を掲載し、説明できるようにする。

協働的な学習活動のポイント

- ◇グループの話し合いを、自力解決後と全体での話し合い後の2回設定する。自力解決後には、自分の考えの妥当性を話し合う。解決に至らなかった生徒には、全体での話し合い後に、もう一度グループの話し合いを行うことで、解決に至らなかった理由を追究させることができる。



課題を把握する

- 1 本時の課題を確認する。

自分の考えをもつ

- 2 自力解決する。

協働的な学習活動
グループ
全体
グループ

- 3 グループで解き方を話し合う。
- 4 課題をまとめる。

自分の考えを再構築する

- 5 適用問題を解く。

自己の変容などを振り返る

- 6 話し合いについて自己評価を行い、振り返る。



理科

第2学年「電流とその利用」

課題：電球が五つある回路の各部に流れる電流の大きさを、水流モデルを使って表そう

言語活動のポイント

- ◇「根拠に基づいた予想」、「予想と実際の実験結果との比較」、「考察」の場面で、自らの考えをワークシートに記述させる。

協働的な学習活動のポイント

- ◇自分の考えを説明してからグループの考えをまとめる。
- ◇直列回路と並列回路の電流や電圧の特徴などの既習事項を活用して、複雑な回路の電流の大きさについて、自分の考えを基に他者と話し合い、グループの仮説を立てる。

課題を把握する

- 1 本時の課題を確認する。

自分の考えをもつ

- 2 自分で予想・仮説を立てる。

協働的な学習活動
グループ
全体

- 3 各自が立てた予想・仮説を説明し、グループの仮説を立てる。グループの仮説を全体で発表し、情報を共有する。グループごとに実験し、検証する。

自分の考えを再構築する

- 4 実験結果から考察し、結論を出す。

自己の変容などを振り返る

- 5 話し合いについて自己評価を行い、振り返る。



外国語

第1学年「学校のホームページ」

課題：自分たちの学校のホームページを作成しよう

言語活動のポイント

- ◇他者や他のグループの発表を聞き、新たな考えを英語で書く。
- ◇他者の文章を読み、意見や質問をして再度見直して、自分の原稿を書く。

協働的な学習活動のポイント

- ◇教師がデジタルカメラで原稿を撮影し、電子黒板を活用して発表させる。他のグループの発表を聞いた後、見たりすることで自分の作品の改善に役立てる。

課題を把握する

- 1 本時の課題を確認する。
- ※ 自分の考えは前時までにまとめておく。

協働的な学習活動
グループ
全体

- 2 グループで考えたホームページについて全体で発表する。

自分の考えを再構築する

- 3 自分の原稿を修正したり、追加したりする。

協働的な学習活動
グループ

- 4 グループで原稿を読み合い、意見や質問をする。

自分の考えを再構築する

- 5 再度自分の原稿を見直して書く。

自己の変容などを振り返る

- 6 話し合いについて自己評価を行い、振り返る。



様々な言語活動や協働的な学習活動が活性化する指導の工夫例

話し合う方法の工夫

- ・ 課題について調べる内容を分担し、グループ内で係を決める→同じ係になった者同士でグループをつくり情報共有する→元のグループに戻り、話し合っグループで解を出す
- ・ グループで、ある話題について話し合う→時間を区切ってグループを移動し、構成員を代えて話し合う



思考を促す発問と視点

- ・ 児童・生徒の主体的な思考を促す発問を考える
- ・ 思考・表現する視点を明確に示す



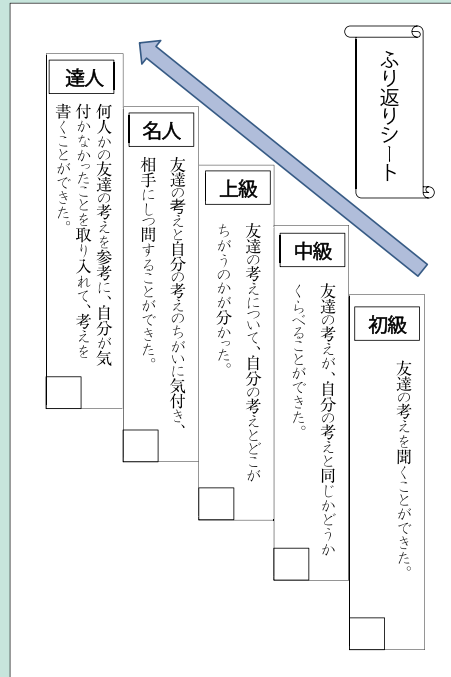
ノート指導

- ・ 図やキーワードを入れるなど、話し合いで活用できるようなまとめ方をする
- ・ 話し合っ気付いたことや考えの変化も書くようにする



振り返りシート

- ・ 自らの学びを振り返るための「振り返りシート」を活用する

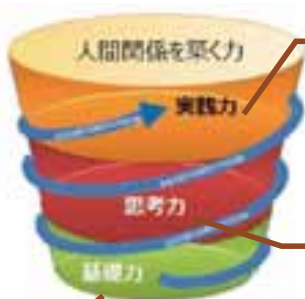


(例) 小学校国語「振り返りシート」

21世紀型能力と「人間関係を築く」との関係

21世紀型能力とは、国立教育政策研究所の研究の中で、21世紀を生き抜く力として検討されたものです。この研究の成果をまとめた「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」(平成25年3月)では、21世紀型能力として「基礎力」、「思考力」、「実践力」が示されています。下記の図では、各教科の基礎的・基本的な知識・技能を使いこなす能力を「基礎力」としています。また、思考力、判断力、表現力等を「思考力」としています。

各学校の教科等指導においては、「基礎力」を使って言語活動や協働的な学習活動を行うことで、「思考力」や「人間関係を築く力」を高め、「実践力」へ向かわせることができると考えています。



実践力

日常生活や社会、環境の中に問題を見付け出し、自分の知識を総動員して、自分やコミュニティ、社会にとって価値のある解を導くことができる力
解を社会に発信し協調的に吟味することを通して他者や社会の重要性を感得できる力

思考力

一人一人が自ら学び判断し自分の考えをもって、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、更に次の問いを見付ける力

基礎力

言語、数、情報(ICT)を目的に応じて道具として使いこなすスキル

参考: 「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原則」(国立教育政策研究所 平成25年3月)